

帰国会見で笑顔を見せる(右から)中川伊藤、岸、嶋本、八木の各選手。学内



力尽くした5つの笑顔

伊藤4位入賞 嶋本9位

八木12位 岸は14位 中川、予選8位も準決敗退

7月27日から17日間開かれたロンドン五輪に金沢学院大学から5選手が出場し、メダルは獲得できなかったものの、それぞれ全力を尽くして笑顔で帰国しました。現地には教職員、学生、家族ら計45人が3隊に分かれて渡航する一方、留守部隊も深夜に学内に集まって、ともに盛大な応援を繰り広げました。(写真は一部を除き北國新聞社提供)

ロンドン五輪特集

メダルが期待されたトランポリン男子の伊藤正樹選手は惜しくも4位となり、4年後のリベンジを誓っています。
75kg超級の嶋本麻美選手は、故障の不安を抱えながらも入賞にあと一步

↓予選で8位の美技を見せた中川選手



↓トップ級の高さを誇った伊藤選手の演技



東高OG 松本が金メダル

金沢学院東高校OGの松本薫選手は柔道女子57kg級で金メダルを獲得しました。競技中の鬼気迫る形相と、試合後の穏やかな笑顔の差が印象的でした。



ジャーク 143kg成功の嶋本選手

ウエイトリフティングの9位でした。
53kg級の八木かなえ選手は12位、トランポリン女子の岸彩乃選手は14位にとどまりましたが、



試技成功の八木選手



公開練習で笑顔の岸選手

ともにまだ大学2年の同級生とあって、「次(リオ五輪)に向けて、いい経験になった」と声をそろえています。
2度目の五輪に臨んだ水泳高飛び込みの中川真依選手は、予選8位と気を吐いたものの準決勝は最下位で敗退し、前回北京大会の成績をしのぐことはできませんでした。

応援団も燃えましました

右から八木、伊藤、岸、嶋本の各選手に声援を送る教職員、家族、学生ら

